

# 気を付けよう! デング熱と蚊媒介 (ヒトスジシマカ)

## ●デング熱について

日本国内で感染した症例は、過去60年以上報告されていませんでしたが、2014年8月以降、東京都立代々木公園等で感染したと考えられるデング熱患者が発生しています。

## ●デング熱とは

デング熱は、ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します。

また、デング熱の媒介蚊であるヒトスジシマカは人家周辺や公園など、身近な場所で発生するため全国いずれの場所においても発生する可能性があります。

現在のところ、沖縄県内においてデング熱の感染患者は、報告されていませんが、亜熱帯である沖縄にはウイルスを媒介するヒトスジシマカが生息しているため、注意が必要です。



デング熱患者



デングウイルスを保有した蚊



健康な人

※人から人へ直接感染することはなく、感染しても発症しないこともあります。

## ●症状

潜伏期間は2~15日間

突然の発熱、頭痛、関節痛

筋肉痛、発疹などがみられます。

多くの場合、発症しても一週間程度で回復しますが、ごくまれに重症化して出血やショック症状を示すことがあります。



## ●治療方法

特別な治療方法や有効な抗ウイルス薬はなく、対症療法が主体となります。

## ●媒介蚊(ウイルスを運ぶ蚊)

### ・ヒトスジシマカ

⇒体長は約4~5 mm

⇒胸部に1本の筋があり、和名はこれに基づく。

⇒県内でも身近にみることができる。

⇒日中草むらや木陰などで待ち伏せし、ヒトが近づいたら吸血する。

⇒県内では、特に4月~11月に活発に活動し、一年中存在する。



## ●個人でできる感染予防対策(蚊の対策)

### 【成虫対策】

- 1.蚊が多くいる場所で活動する場合は、長袖、長ズボンを着るなどできるだけ肌を露出しない。
- 2.虫よけ剤を使用し、蚊を寄せ付けないようにする。
- 3.網戸などで屋内への侵入を防ぐ。

### 【幼虫対策】

住宅周辺の幼虫発生源となる「不要な水たまり」をつくらないようにすることが重要。

- 1.植木鉢やプランターの水の受け皿は、週一回程度水を捨てる。
- 2.屋外に放置されている人工容器を撤去する。
- 3.人工容器を雨のあたらない場所に移動する。
- 4.撤去できない物には覆いをかぶせる。



### 【蚊の発生源】

鉢の受け皿、バケツ、放置した空き缶等、古タイヤ、小さな水たまり、水が溜まったブロックの穴、お墓の花立て等..

※「気を付けよう!デング熱と蚊媒介」(沖縄県医療保険部健康長寿課)より

問合せ:環境対策課 ☎893-4411 内線451・457 健康増進課 ☎898-5583